

## ②先人の教え

### 会議とは 朝礼、山半塾の考え方

会議を実のあるものにするには会議の原則に立ち返って現在の会議を見直すことである

会議の原則とは①会 ②議 ③決 ④実 の四つである。

- ① 会 とはまさしく「会う」ことであり、会議のメンバーとして適切な人が定刻にきちんと揃っているかどうかである。
- ② 議 とは会議の中できちんとディスカッション（議論）が行なわれているかどうかである。社長のワンマンショーや特定の幹部のみ発言に終始していないか？司会者(当番)は発言が均等になるように配慮すべきである。
- ③ 決 が最も大事なポイントである。「決」とは決定を意味する。決定事項のない会議は小田原評定であり、これを称して「怪議」（何が決まったのかよく分からない）と言う。そして、決定事項は同時に「誰が」という担当者と「いつまでに」という期限まで明確にしておくことである。結局、実のある会議とは「何を」「誰が」「いつまでに」というところまで話を煮詰めたものであり、運営のポイントとして、会議の最後に決定事項の確認と時間を取ることである。最後に
- ④ 実 がある「実」とは、実行のことであり、いくら決定しておいても実行しなければ、何ら成果の上がらない。会議とは「会・議・決・実」であり、「決定と実行」を生み出すものでない限り、それはただのミーティング(集まり)にしか過ぎないと言えるのである。

山半の会議でも一見、時間のムダ使いな様だが、遊び心を許す心のゆとりがあつてこそ、自他ともに本当の会議の姿が見えてくるのである。

故石田会長語録より

今、会議で誰が毎月どのような結果(成績)であったか、しっかり全員に認識して頂きます。そして来月以降どのように計画をし、目標に近づけるか課の内容を課長が発表します。「頑張ります」と言う言葉は必要ありません。何をどのように頑張るかが必要なのです。そして現状会社がどうゆう状態か全社員が知らなくてははいけない。情報発信の場でもある。また、常に会社の方針、方向性を全社員が理解されなければ会社の目標は達成されない。会議の原則「会・議・決・実」を常に考え、決定と実行を繰り返します。

平成 31 年 3 月 27 日